

こんにちは。嘱託員の村上です。

現在、歴史資料室では青森市民図書館7階・8階において館内展示「戦後復興と新しい教育」を開催しています。この展示は昨年の夏に行った「学校と戦争―動員された子どもたち」に続くもので、青森市の戦後復興を教育の復興という視点で捉え、構成したものです。



館内展示のようす(7階)



館内展示のようす(8階)

展示資料は歴史資料室が所蔵する資料のうち、青森市の初代教育長を務めた加藤<sup>かとうとしつら</sup>壽綿（1894－1987）の旧蔵資料が中心となっており、そのほとんどは初公開の資料です。加藤は中里町（現中泊町）出身で、大正3年（1914）に青森県師範学校を卒業し、中里町や青森市で教員を務めたあと、校長として長島尋常小学校（現長島小学校）、浦町尋常高等小学校（現浦町小学校）、橋本国民学校（現橋本小学校）に勤務しました。その後、加藤は昭和20年（1945）3月に中里町へ<sup>よこやまみのる</sup>と戻りますが、昭和27年に横山<sup>よこやまみのる</sup>實（1903－1974）青森市長の求めで再び青森市へやって来ました。

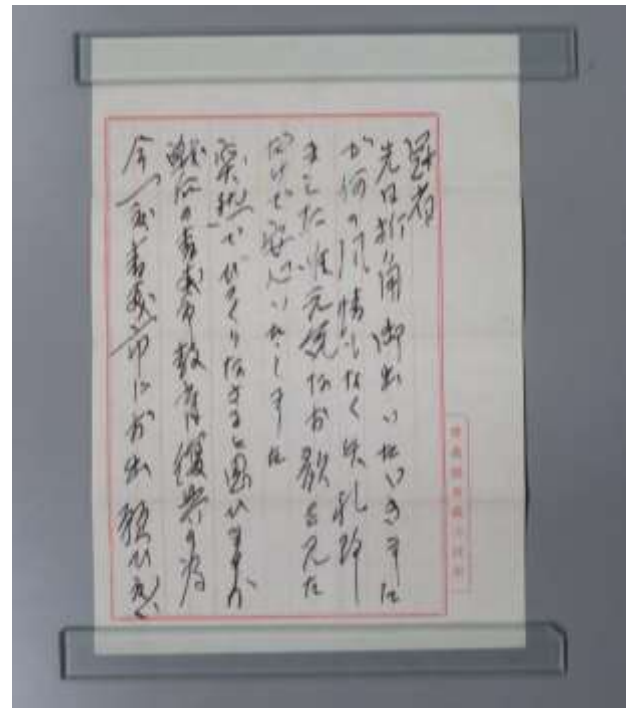
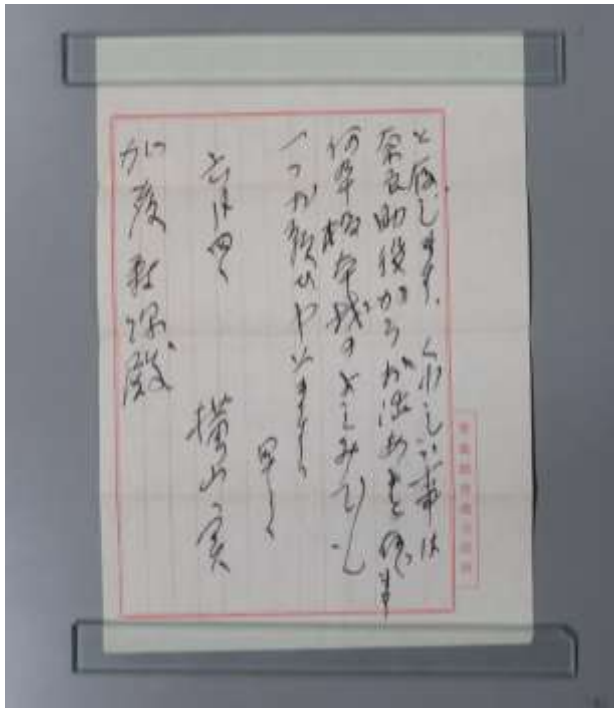


加藤 寿綿  
（『昭和29年 教育要覧』より）



横山 實  
（『新青森市史』通史編4より）

さて、図書館8階の展示スペースには昭和27年6月4日に横山が加藤に宛てて書いた書簡を展示しています。内容は「戦后（戦後）の青森市教育復興」のため青森市へ来てほしいというもので、最後に「橋本校のよしみ」でお願いしますと書かれています。では、この「橋本校のよしみ」というのはいったい何のことでしょうか。



横山が加藤に宛てて書いた書簡  
(歴史資料室蔵)

実は、横山も加藤と同じ青森県師範学校の卒業生で、市長になる前は教員をしていました。調べてみると、横山と加藤は同じ時期に橋本尋常小学校（現橋本小学校）の教員を務めていたことがわかりました。つまり、「橋本校のよしみ」とはかつて同僚であったという縁を意味しているのですね。

加藤はこの手紙を受け取ったあと、まず青森市の教学課長に就任し、昭和27年11月に青森市教育委員会が発足した後は教育長となりました。ただし、当時は教育長になるために免許が必要だったため、東京大学で行われた教育長講習会に参加して免許を取得しました。8階の展示スペースにはこの講習会で使用したノートや修了証書なども展示しています。

このほか、7階の展示スペースにも「あおもり歴史トリビア」第102号でご紹介した「青森市立新町小学校々舎新築」と書かれた棟札など貴重な資料を展示しております。展示は8月25日（金曜日）まで行っておりますので、市民図書館へお越しの際はぜひご覧ください。



「戦後復興と新しい教育」チラシ